

## 経済学部の前日程試験：採点方式の分かりやすい説明

経済学部では一般入試前日程において、独特の方法で合格者を決めています。これは受験生への「学力をまんべんなく身につけてほしい、同時に得意科目でも勝負してほしい!」という経済学部の思いの現れです。実際、どのような方法なのか分かりやすく説明します。

### [1] センター試験について

文系型（国語 100，地歴公民 2 科目 100，数学 100，理科 1 科目<sup>(注)</sup> 50，外国語 100）

理系型（国語 100，地歴公民 1 科目 50，数学 100，理科 2 科目 100，外国語 100）

のどちらでも受験できます。文系型を「配点 a」，理系型を「配点 b」と呼んでいます。

どちらも 450 点満点です。どちらの科目パターンにもなる場合は，文系型・理系型のうち高得点になる型を大学が採用します。

(注) 物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎から選択する場合は 2 科目

### [2] 個別学力検査について

数学 100 点，英語 100 点で採点されますが，次のような方法で合格者を決めていきます。

(第 1 段階)：

個別学力検査の数学，英語の素点を全員 1.5 倍します（これを「配点 c」と呼んでいます）。従って，数学+英語で 300 点満点になります。

この得点とセンター試験の得点を合計し（「配点 A」と言います），高得点順に 110 位までを合格とします。110 位が同点で複数人いたら，その人たち全員が合格です。

(第 2 段階)：

第 1 段階での合格者を除いた人たちについて，個別学力検査の

数学の素点  $\geq$  英語の素点  $\Rightarrow$  数学の素点  $\times 2$  英語の素点  $\times 1$

数学の素点  $<$  英語の素点  $\Rightarrow$  数学の素点  $\times 1$  英語の素点  $\times 2$

として，数学+英語の合計得点を出します（これを「配点 d」と呼んでいます）。

この得点とセンター試験の得点を合計し（「配点 B」と言います），高得点順に残りの合格者を決めます。

あなたも試験の合格者を判定してみましょう

仮に入学定員を 2 人とします。そして平三郎君，数衛門君，英太郎君の 3 人が受験しました。3 人のセンター試験の得点が同じとすれば，可否は個別学力検査で決まります。

さて個別学力検査の結果，3 人の英語，数学の素点は以下になりました。平三郎君は万遍なく得点し，数衛門君は数学が，英太郎君は英語が得意のようです。

	平三郎君	数衛門君	英太郎君
数学	70	90	30
英語	70	40	95

経済学部では、素点から次の3通りの方式で得点を計算します。

- 「1. バランス型配点」：英語・数学両方の素点を1.5倍して合計する。 (配点c)  
「2. 数車型配点」：数学の素点を2倍，英語はそのままにして合計する。  
「3. 英語型配点」：数学はそのまま，英語の素点を2倍にして合計する。 } (配点d)

では、3人の得点を一覧表にしてみましょう。

平三郎君	科目	素点	バランス型	数車型	英語型
	数学	70	105	140	70
	英語	70	105	70	140
	合計	140	<b>210</b>	210	210

数衛門君	科目	素点	バランス型	数車型	英語型
	数学	90	135	180	90
	英語	40	60	40	80
	合計	130	195	<b>220</b>	170

英太郎君	科目	素点	バランス型	数車型	英語型
	数学	30	45	60	30
	英語	95	142.5	95	190
	合計	125	187.5	155	<b>220</b>

長崎大学経済学部は、「まんべんなく学力が身についている」ことを重視しますが、「英語・数学のどちらかに強みを持つ」人を不合格にするのはもったいないと考えています。そこで合格者を次のようにして決めています。

- 第1段階（「配点A」方式での合格者の決定）：

「バランス型」を用いて、「まんべんなく学力が身についている人」を1人合格とします。つまり、合計の一番高い1位の平三郎君がまず合格者になります。

(注：実際には定員の約60%である110位までを第一段階バランス型で合格とする)

● 第2段階（「配点B」方式での合格者の決定）：

第1段階の合格者を除いた人たちの中から、「数学型」「英語型」によって「数学、英語のどちらかに強みを持つ人」を合格とします。

この例では、平三郎君を除いた二人の中から残りの合格者を選びます。

数衛門君は数学の素点 $\geq$ 英語の素点となるので「数学型」の220点になり（したがって、数衛門君の「英語型」得点は合否判定には用いられません）、英太郎君は数学の素点 $<$ 英語の素点となるので「英語型」の220点（英太郎君の「数学型」得点は用いられません）がそれぞれの得点になります。

同点者は全員合格なので、数衛門君、英太郎君は両名とも合格です。

平三郎君はバランスの取れた学力を、数衛門君は数学の力を、そして英太郎君は英語の力をそれぞれ活かして合格を勝ち取ることができました。特に、英太郎君は単純な得点合計では（＝「バランス型」と同じことですが）第3位ですから不合格でした。「英語型」があったことで見事に逆転勝利を収めたことになります。

一見複雑に見えますが、**経済学部の採点方式は受験生の皆さんに有利になる**ようにと考えて採用している方法です。なお、ここでは説明を簡単にするために仮の数値を用いました。実際の定員等については募集要項をご覧ください。

皆さんの健闘を期待しています。